

開校準備委員会だより 第2号

小学校の通学区域について協議しました！

【教育委員会から提示された通学区域（案）について】

➤ 基本的な考え方

- 光貞小学校の過大規模の解消を図ることを目的とします。
- 一つのコミュニティとして機能できるように配慮します。
- 児童（小学生）の通学時の安全性・通学距離に配慮します。



- 主として北九州学術研究都市整備事業第1期（南部）及び、第2期（北部）の開発区域を通学区域としてはどうかと提示されました。

【開校準備委員会での検討について】

第1回会議で教育委員会から提示された通学区域（案）について、各委員（組織）から地域や保護者などへ説明を行い、一部の地域や保護者から意見をいただきました。第2回会議ではそうした意見を踏まえて協議を重ねました。

➤ 会議で出された意見や提案

教育委員会から提示された通学区域（案）については、以下のような意見がだされました。

- 子どもの視点から意見をまとめ上げ、大人の都合で子ども達が不便な思いをすることがないようにしたい。
- 現在、江川小学校区となっている大字小敷地区（北九州学術研究都市整備事業第3期開発地域）は、開発区域内にある町内会と同じ自治会として活動しているので、新しい小学校の通学区域に含めてほしい。
- 新しい小学校は、開校時には、小学生が1,000人ぐらいになると聞いているので、安全面や学校行事などでの混雑が心配。
- ひびきの南地区では新しい学校に通わせたいという意見と、光貞小学校区のままだと良いという両方の意見がある。（ひびきの南地区が光貞小学校区に残ることはできないか？）
- 今後、大学にも協力してもらうことがあるので、北九州産業学術推進機構（FAIS）にも、開校準備委員会に参加してもらいたい。

➤ 協議の結果

- 現在江川小学校区となっている大字小敷地区を新しい小学校の通学区域に含めることについて、現在は、この地域の子どもの数が少ないため問題はない。しかし、北九州学術研究都市整備事業の第3期の開発が進み、児童数が急に増えた場合、新しい小学校の教室が足りなくなる可能性があるため、暫定措置として、新しい小学校の通学区域とする。

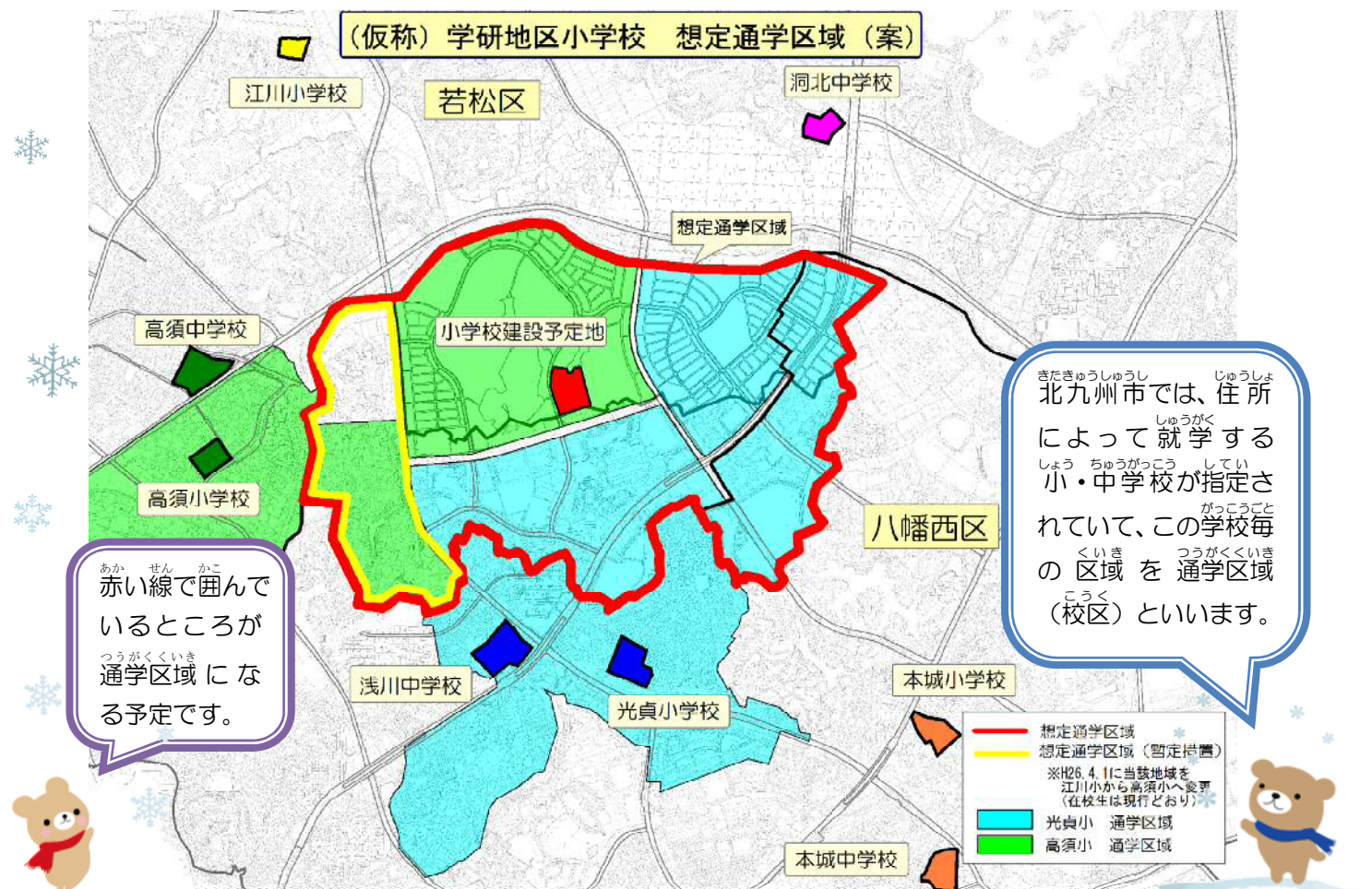
第1回会議で提示
されました。



なお、その場合、江川小学校から数人だけ新しい学校に通学することになり、転校生のような状態になるため、教育委員会から、子どもの教育環境を考え、通学区域を江川小学校から高須小学校へ変更してはどうかと提案され、了承しました。

- 児童の人数にあわせてゆとりがある学校となり、教育委員会が児童の安全に十分配慮した学校づくりを進めていくので、ひびきの南地区は新しい小学校の通学区域とする。
- FAISの代表者に開校準備委員会に加わってもらうように要望する。

以上の方向で次回の会議までに保護者や地域の皆様の声を聞き、問題がなければ下記の案に決定しようということになりました。



■ 通学区域の決定まで

開校準備委員会で話し合い、今年の3月までに意見を取りまとめて、小学校の通学区域（案）を決定します。なお、正式な決定は教育委員会で行われます。

小学校の通学区域についてご意見などがありましたら、開校準備委員会の委員へお知らせください。

■ 通学区域が設定されるとどうなるの？

新しい小学校の通学区域が決まると、学校が開校する平成29年4月以降は、その区域内に住んでいる児童は、全員、新しい小学校へ通学することになります。

【次回の開催について（予定）】

次回の開校準備委員会では小学校の通学区域（案）を決定し、中学校の通学区域の検討を始める予定です。

日程：平成26年3月下旬頃

【お問い合わせ先】 教育委員会企画課 Tel 582-2357、または光貞小学校、高須小学校

